

国立研究開発法人情報通信研究機構 中長期目標（第5期） 新旧対照表

（主務府省：総務省）

Page	変更案	現行
2	<p>I. 政策体系における法人の位置付け及び役割（ミッション）</p> <p>国立研究開発法人情報通信研究機構（以下「NICT」という。）は、我が国唯一の情報通信（ICT）分野を専門とする公的研究機関であり、国際動向を踏まえつつ、国の情報通信政策との密接な連携の下、大学や民間企業では実施できないような長期間にわたり組織的に推進すべき情報の電磁的流通及び電波の利用に関する技術の研究及び開発、高度通信・放送研究開発を行う者に対する支援、標準時の通報、通信・放送事業分野に属する事業の振興等を総合的に行う国立研究開発法人である。</p>	<p>I. 政策体系における法人の位置付け及び役割（ミッション）</p> <p>国立研究開発法人情報通信研究機構（以下「NICT」という。）は、我が国唯一の情報通信（ICT）分野を専門とする公的研究機関であり、国際動向を踏まえつつ、国の情報通信政策との密接な連携の下、大学や民間企業では実施できないような長期間にわたり組織的に推進すべき情報の電磁的流通及び電波の利用に関する技術の研究及び開発、<u>標準時の通報、通信・放送事業分野に属する事業</u>の振興等を総合的に行う国立研究開発法人である。</p>
2	<p>1. 政策体系における法人の位置付け及び状況の変化</p> <p>（同右）</p> <p>（同右）</p> <p>（同右）</p> <p>とりわけ、<u>2020年にサービスが開始した5Gの次の世代の情報通信インフラ</u>である「Beyond 5G」（いわゆる「6G」）やさらにその先を見据えた研究開発が重要である。Beyond 5Gは、単なる通信インフラにとどまらず、ウィズコロナ・ポストコロナ時代の「新たな日常」を支え、2030年代に向けてSociety 5.0の進展を図るための生活・社会基盤となることが期待されている。総務省が令和2年6月に取りまとめた「Beyond 5G推進戦略－6Gへのロードマップ－」（以下「Beyond 5G推進戦略」という。）において、「Beyond 5Gの中核技術のうち、我が国として重点的に取り組むべき戦略的に重要な要素技術の研究開発を集中的に推進するプラットフォームをNICT等に構築し、高度な研究環境を国内外の多様なプレイヤーに提供することで、これらの環境を活かした共同研究等を推進する」との提言に基づき、これまでのICT分野の革新的な研究開発に取り組んできたNICTが中核となり、官民連携による我が国の革新的な研究開発を推進することが期待される。</p>	<p>1. 政策体系における法人の位置付け及び状況の変化</p> <p>ICTの急激な進展により、（略）。</p> <p>このような状況のもと、（略）。</p> <p>第4次中間答申では、（略）。</p> <p>とりわけ、<u>無線分野では2020年にサービスが開始した5Gの次の世代</u>である「Beyond 5G」（いわゆる「6G」）やさらにその先を見据えた研究開発が重要である。Beyond 5Gは、単なる通信インフラにとどまらず、ウィズコロナ・ポストコロナ時代の「新たな日常」を支え、2030年代に向けてSociety 5.0の進展を図るための生活・社会基盤となることが期待されている。総務省が令和2年6月に取りまとめた「Beyond 5G推進戦略－6Gへのロードマップ－」<u>において</u>、「Beyond 5Gの中核技術のうち、我が国として重点的に取り組むべき戦略的に重要な要素技術の研究開発を集中的に推進するプラットフォームをNICT等に構築し、高度な研究環境を国内外の多様なプレイヤーに提供することで、これらの環境を活かした共同研究等を推進する」との提言に基づき、これまでのICT分野の革新的な研究開発に取り組んできたNICTが中核となり、官民連携による我が国の革新的な研究開発を推進することが期待される。</p>

Page	変更案	現行
2, 3	<p>さらに、情報通信審議会は、近年の Beyond 5G に関する国際的な研究開発競争の激化等を受けて、Beyond 5G の研究開発及び社会実装の一層の加速化に向け、令和 4 年 6 月「Beyond 5G に向けた情報通信技術戦略の在り方—強靱で活力ある 2030 年代の社会を目指して—」中間答申（以下「B5G 中間答申」という。）を取りまとめた。B5G 中間答申では、Beyond 5G については従来の無線通信の延長上だけで捉えるのではなく、有線通信や非地上系通信等も含めた統合的なネットワークとして捉えた上で、Beyond 5G 推進戦略における研究開発戦略等を具体化し大幅にアップデートした新たな技術戦略を提言している。具体的には、Beyond 5G について、国として集中投資すべき重点研究開発分野を特定し、研究開発と社会実装を加速化する「研究開発戦略」、開発成果の早期かつ順次のネットワーク実装を進める「社会実装戦略」、研究開発戦略と一体となった「知財・国際標準化戦略」、世界市場をリードする「海外展開戦略」を強力に推進していく方針等が盛り込まれている。</p> <p>NICTは、我が国唯一のICT分野を専門とする公的研究機関であり、我が国における科学技術の水準の向上を通じた国民経済の健全な発展その他の公益に資するため研究開発の最大限の成果を確保することを求められている。このため、科学技術・イノベーション基本計画、統合イノベーション戦略、第 4 次中間答申、B5G中間答申等の各種政府戦略を踏まえて、Beyond 5G、AI技術、量子技術、サイバーセキュリティを始めとしたICT分野における世界最先端の研究開発を戦略的に推進し、その成果である革新的な技術シーズを着実に社会実装へとつなげていくほか、テレワーク、遠隔医療、オンライン教育等ウィズコロナ・ポストコロナ時代の「新たな日常」を支えるICTインフラの高度化に積極的に取り組む必要がある。この際、科学技術が社会と調和するために倫理的・法制度的・社会的課題を検討しつつ、持続的に新たな価値を創出する社会の実現を目指していく必要がある。</p>	<p>[追加]</p> <p>NICTは、我が国唯一のICT分野を専門とする公的研究機関であり、我が国における科学技術の水準の向上を通じた国民経済の健全な発展その他の公益に資するため研究開発の最大限の成果を確保することを求められている。このため、科学技術・イノベーション基本計画、統合イノベーション戦略、第 4 次中間答申_____等の各種政府戦略を踏まえて、Beyond 5G、AI技術、量子技術、サイバーセキュリティを始めとしたICT分野における世界最先端の研究開発を戦略的に推進し、その成果である革新的な技術シーズを着実に社会実装へとつなげていくほか、テレワーク、遠隔医療、オンライン教育等ウィズコロナ・ポストコロナ時代の「新たな日常」を支えるICTインフラの高度化に積極的に取り組む必要がある。この際、科学技術が社会と調和するために倫理的・法制度的・社会的課題を検討しつつ、持続的に新たな価値を創出する社会の実現を目指していく必要がある。</p>
3	<p>2. 法人の現状と課題</p> <p>(同右)</p> <p>(同右)</p> <p>(同右)</p>	<p>2. 法人の現状と課題</p> <p>NICT は AI、(略)。</p> <p>一方でこのような最先端の研究分野では、(略)。</p> <p>今後、(略)。</p>

Page	変更案	現行
3 4	<p>また、NICT は、令和2年度第三次補正予算により造成した時限的な基金により、主に Beyond 5G の実現に向けた要素技術の早期実現を目的とし、効率的かつ効果的な研究開発マネジメントを実施するとともに資金の適正な管理を実施してきている。</p> <p>一方で B5G 中間答申を受け、令和4年度第二次補正予算により新たに恒久的な基金を造成することとしており、Beyond 5G の実現に向けた要素技術の早期実現という目的に加え、その成果の社会実装・海外展開を目指していくこととしている。</p> <p>恒久的な基金の造成後、NICTは、それまで以上に基金を適正に管理・運用するとともに、研究開発成果を最大化する体制を整備していくことが重要である。</p>	<p>[追加]</p>
9	<p>2. 分野横断的な研究開発その他の業務</p> <p>NICT の研究開発成果を最大化するとともに、我が国発の技術の社会実装・海外展開を促進するため、1. の「重点研究開発分野の研究開発等」の業務と連携し、企業・大学等との共同研究、委託研究、研究開発成果の標準化、国際展開、民間企業等の進める戦略的な研究開発の支援、ベンチャー創出等に積極的に取り組み、研究開発成果の普及や社会実装に向けた取組を実施する。特に、Beyond 5G、AI（データ利活用、脳情報通信）、量子情報通信、サイバーセキュリティの4領域については、我が国における推進体制の強化や拠点形成等も含め、産学官一体となり、横断的かつ戦略的な取組を強力に推進していく。</p> <p>(同右)</p>	<p>2. 分野横断的な研究開発その他の業務</p> <p>NICT の研究開発成果を最大化する _____ ため、1. の「重点研究開発分野の研究開発等」の業務と連携し、企業・大学等との共同研究、委託研究、研究開発成果の標準化、国際展開、 _____ ベンチャー創出等に積極的に取り組み、研究開発成果の普及や社会実装に向けた取組を実施する。特に、Beyond 5G、AI（データ利活用、脳情報通信）、量子情報通信、サイバーセキュリティの4領域については、我が国における推進体制の強化や拠点形成等も含め、産学官一体となり、横断的かつ戦略的な取組を強力に推進していく。</p> <p>これらの取組をNICT 内で組織横断的かつ戦略的に推進し、NICT の研究開発による直接的な成果の創出に加えて、我が国のICT 産業の活性化及び国際競争力確保にも念頭に置いた戦略的・総合的な取組も推進するとともに、社会課題・地域課題解決や社会システム変革、新たな価値創造等に資するイノベーション創出及びSDGs の達成への貢献を目指すものとする。</p>

Page	変更案	現行
10	<p>(1) Beyond 5Gの推進</p> <p>我が国として目指すべきBeyond 5Gを実現し、Beyond 5Gにおける我が国の国際競争力強化等を図るためには、その優れた機能の中核となる先端的な要素技術の確立やその社会実装・海外展開に向けた研究開発や知財・標準化を強力に推進する必要があるため、【重要度：高】とする。</p> <hr/> <p>本中長期目標期間を集中的な取組期間として、NICT自ら先端的な研究開発を実施するとともに、民間企業等の研究開発の支援やこれを通じた成果の知財・標準化、さらには社会実装・海外展開を促進するため、総務省が策定する基金運用方針等に基づき、公募型研究開発プログラムを実施する。</p> <p><公募型研究開発プログラム></p> <p>① 革新的情報通信技術研究開発推進基金等（Beyond 5G研究開発促進事業）（令和2年度第三次補正予算から令和4年度当初予算まで）</p> <p>（同右）</p>	<p>(1) Beyond 5Gの推進</p> <p>我が国として目指すべきBeyond 5Gを実現するには、その優れた機能の中核となる先端的な要素技術の研究開発を強力に推進する必要があるため【重要度：高】とする。</p> <p>Beyond 5Gの2030年頃の実現の鍵を握る要素技術等（超高速・大容量、超低遅延、超多数同時接続、自律性、拡張性、超安全・信頼性、超低消費電力等）の早期確立に資する成果の創出を目指し、本中長期目標期間を集中取組期間（先行的取組フェーズ）として、NICT自ら先端的な研究開発を実施するとともに、民間企業等の研究開発を促進するため、総務省が策定する研究開発方針に基づき、公募型研究開発プログラムを実施する。</p> <p><公募型研究開発プログラム></p> <p>[追加]</p> <p>革新的情報通信技術研究開発推進基金等を活用し、効率的かつ効果的に研究開発を実施するため、官民の英知を結集した研究開発体制を構築する。</p> <p>具体的には、Beyond 5Gの機能を実現するために中核となる技術分野を対象とした研究開発、協調可能な技術分野において国際的な戦略的パートナーと連携する研究開発、多様なプレイヤーによる技術シーズを創出する研究開発等を実施する中で、研究開発の実施者と緊密に連携し、各研究開発課題の進捗管理を行う。</p> <p>また、外部の幅広い知見を活用するため、外部有識者で構成する評価委員会を設置し、採択時及び終了時の評価とともに、ステージゲート評価を実施することにより、成果目標の達成見通しを常に把握した上で、予算の必要性や研究実施体制の妥当性を精査し、必要に応じて研究開発の加速、縮小、実施体制の変更を行うなど、効率的かつ効果的な研究開発マネジメントを実施する。（なお、革新的情報通信技術研究開発推進基金を充てる研究開発案件については、令和3年度末までに開始する案件に限ることとする。）。</p>

Page	変更案	現行
10	<p>さらに、革新的情報通信技術研究開発推進基金に係る業務の成果について、Beyond 5Gに関する国際的動向や関連技術の進展に寄与する程度を踏まえて評価を行った上で、当該評価に関する報告書を作成、総務大臣に提出し、その概要を公表する。</p> <p>② 情報通信研究開発基金（令和4年度第二次補正予算以降）</p> <p>上記①による研究開発の優れた成果を引き継ぎつつ、社会実装・海外展開を目指し、情報通信研究開発基金を活用して効率的かつ効果的に研究開発の支援・実施を行う。</p>	<p>[追加]</p> <p>[新設]</p>
11	<p>具体的には、B5G中間答申を踏まえ、我が国が強みを有する技術分野を中心として、社会実装・海外展開を目指した戦略的な研究開発、長期的視点で取り組むべき技術シーズの創出や共通基盤技術の研究開発、電波の有効利用に資する技術の研究開発等について支援・実施するとともに、研究開発の実施者と緊密に連携し、各研究開発課題の進捗管理を適切に行う。</p> <p>また、外部の有識者で構成する評価委員会を設置し、採択時及び終了時の評価とともに、ステージゲート評価等を実施することにより、成果目標の達成見通しを常に把握した上で、予算の必要性や研究実施体制の妥当性を精査し、必要に応じて研究開発の加速、縮小、実施体制の変更を求めるなど、効率的かつ効果的な研究開発マネジメントを実施する。</p> <p>さらに、研究開発の支援を通じて、研究開発の実施者間の調整・連携を促進するとともに、当該研究開発の実施者に対し、オープン&クローズ戦略を含めた戦略的な知財・標準化や社会実装・海外展開を促進するなど、当該研究開発成果の最大化に向けた取組を総務省と連携して積極的に進める。</p>	<p>[新設]</p>
12	<p>(3) 戦略的・機動的な研究開発ハブの形成によるオープンイノベーションの創出</p> <p>(同右)</p>	<p>(3) 戦略的・機動的な研究開発ハブの形成によるオープンイノベーションの創出</p> <p>重点研究開発分野における我が国の国際競争力を確保・強化する観点から、基礎研究から成果普及まで一貫通貫で取り組むための国際的に魅力ある研究開発ハブを戦略的・機動的に形成する。</p>

Page	変更案	現行
12	<p>特に、Beyond 5Gの実現に向け、新たな技術の進展が想定されることを踏まえ、ネットワークキャリア、ベンダ、研究機関、ユーザの力を集結する研究開発・技術実証・社会実装のオープンイノベーション拠点として、運用、利用及び改善を通じて実証環境が循環進化するテストベッドを構築し、<u>民間企業、大学等の利用拡大に努める。</u></p>	<p>特に、Beyond 5Gの実現に向け、新たな技術の進展が想定されることを踏まえ、ネットワークキャリア、ベンダ、研究機関、ユーザの力を集結する研究開発・技術実証・社会実装のオープンイノベーション拠点として、運用、利用及び改善を通じて実証環境が循環進化するテストベッドを構築する。</p>
16	<p>3. テレワーク等による働き方改革及び業務の電子化の促進</p> <p>ウィズコロナ・ポストコロナ時代においてもテレワーク、ローテーション勤務、時差出勤等を積極的に活用し、コミュニケーションの活性化、業務の効率化、働き方改革に努めるとともに、電子化の促進等により事務手続きの簡素化・迅速化を図る。</p> <p>また、「<u>情報システムの整備及び管理の基本的な方針</u>」（令和3年12月24日、デジタル大臣決定）を踏まえ、PMO（Portfolio Management Office）の設置等の体制整備を行うとともに、情報システムの適切な整備及び管理を行う。</p>	<p>3. テレワーク等による働き方改革及び業務の電子化の促進</p> <p>ウィズコロナ・ポストコロナ時代においてもテレワーク、ローテーション勤務、時差出勤等を積極的に活用し、コミュニケーションの活性化、業務の効率化、働き方改革に努めるとともに、電子化の促進等により事務手続きの簡素化・迅速化を図る。<u>情報システムの整備及び管理の基本的な方針</u>（令和3年12月24日、デジタル大臣決定）を踏まえ、PMOの設置等の体制整備を行うとともに、情報システムの適切な整備及び管理を行う。</p>
別紙1	<p style="text-align: center;">NICTに係る政策体系図 別紙1</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>法人の目的(NICT法第4条抜粋)</p> <p>情報の電磁的流通及び電波の利用に関する技術の研究及び開発、高度通信・放送研究開発を行う者に対する支援、通信・放送事業分野に属する事業の振興等を総合的に行うことにより、情報の電磁的方式による適正かつ円滑な流通の確保及び増進並びに電波の公平かつ能率的な利用の確保及び増進に資すること。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>政府の方針</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 科学技術・イノベーション基本法・科学技術・イノベーション基本計画 ○ 統合イノベーション戦略 ○ 情報通信審議会「新たな情報通信技術戦略の在り方」第4次中間答申 ○ 情報通信審議会「Beyond 5Gに向けた情報通信技術戦略の在り方—強靱で活力ある2030年代の社会を目指して—」中間答申 等 </div> <p style="text-align: center; background-color: black; color: white; padding: 5px;">中長期目標期間(令和3年4月～令和8年3月)における役割(ミッション)</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>NICT 国立研究開発法人 情報通信研究機構</p> <p>1. 重点研究開発分野の研究開発等</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 電磁波先進技術分野 (2) 革新的ネットワーク分野 (3) サイバーセキュリティ分野 (4) ユニバーサルコミュニケーション分野 (5) フロンティアサイエンス分野 </div> <div style="font-size: 2em; text-align: center; margin: 0 10px;">→ 一体的 推進</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>2. 分野横断的な研究開発その他の業務</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) Beyond 5Gの推進 (2) オープンイノベーション創出に向けた産学官連携等の強化 (3) 戦略的・機動的な研究開発ハブの形成によるオープンイノベーションの創出 (4) 知的財産の積極的な取得と活用 (5) 戦略的な標準化活動の推進 (6) 研究開発成果の国際展開の強化 (7) 国土強靱化に向けた取組の推進 (8) 戦略的ICT人材育成 (9) 研究支援業務・事業振興業務等 <p>3. NICT法第14条第1項第3号から第5号までの業務 ※</p> <p style="text-align: right; font-size: small;">※ 標準時通報等の業務</p> </div> </div>	<p style="text-align: center;">NICTに係る政策体系図 別紙1</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>法人の目的(NICT法第4条抜粋)</p> <p>情報の電磁的流通及び電波の利用に関する技術の研究及び開発、高度通信・放送研究開発を行う者に対する支援、通信・放送事業分野に属する事業の振興等を総合的に行うことにより、情報の電磁的方式による適正かつ円滑な流通の確保及び増進並びに電波の公平かつ能率的な利用の確保及び増進に資すること。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>政府の方針</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 科学技術・イノベーション基本法・科学技術・イノベーション基本計画 ○ 統合イノベーション戦略 ○ 情報通信審議会「新たな情報通信技術戦略の在り方」第4次中間答申 等 </div> <p style="text-align: center; background-color: black; color: white; padding: 5px;">中長期目標期間(令和3年4月～令和8年3月)における役割(ミッション)</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>NICT 国立研究開発法人 情報通信研究機構</p> <p>1. 重点研究開発分野の研究開発等</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 電磁波先進技術分野 (2) 革新的ネットワーク分野 (3) サイバーセキュリティ分野 (4) ユニバーサルコミュニケーション分野 (5) フロンティアサイエンス分野 </div> <div style="font-size: 2em; text-align: center; margin: 0 10px;">→ 一体的 推進</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>2. 分野横断的な研究開発その他の業務</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) Beyond 5Gの推進 (2) オープンイノベーション創出に向けた産学官連携等の強化 (3) 戦略的・機動的な研究開発ハブの形成によるオープンイノベーションの創出 (4) 知的財産の積極的な取得と活用 (5) 戦略的な標準化活動の推進 (6) 研究開発成果の国際展開の強化 (7) 国土強靱化に向けた取組の推進 (8) 戦略的ICT人材育成 (9) 研究支援業務・事業振興業務等 <p>3. NICT法第14条第1項第3号から第5号までの業務 ※</p> <p style="text-align: right; font-size: small;">※ 標準時通報等の業務</p> </div> </div>

Page	変更案	現行
別紙2	<p style="text-align: center;">国立研究開発法人情報通信研究機構（NICT）の使命等と目標との関係</p> <p>（使命）</p> <p>NICTはICT分野を専門とする我が国唯一の公的研究機関であり、国際動向を踏まえつつ、国の情報通信政策との密接な連携の下、大学や民間企業では実施できないような長期間にわたり組織的に推進すべき情報の電磁的流通及び電波の利用に関する技術の研究及び開発、高度通信・放送研究開発を行う者に対する支援、標準時の通報、通信・放送事業分野に属する事業の振興等を総合的に実施。</p> <p>（現状・課題）</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 48%;"> <p>◆強み</p> <ul style="list-style-type: none"> AI、サイバーセキュリティ、リモートセンシング分野等における膨大な研究データを蓄積・活用しており、我が国の国際競争力や優位性確保等に資する貴重な強みを持っている。 長年の基礎研究の成果を活用し、技術移転やライセンス提供等を行うことにより、民間企業による商用展開や自治体等における社会実装が進んでいる例もある。 <p>◆弱み・課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 最先端の研究分野では、世界的に人材獲得競争が過熱しており、優秀な研究人材の確保が大きな課題となっている。NICTでは、現状、例えば、給与面ではいわゆる「GAFA」のようなグローバル企業には到底及ばず、魅力的な研究環境（豊富なデータを活用可能な環境）で優秀な研究人材をつなぎとめている状況。 </div> <div style="width: 48%;"> <p>（環境変化）</p> <ul style="list-style-type: none"> ICTの急激な進展により、グローバルな環境においてあらゆる「もの」が瞬時に結び付き相互に影響を及ぼしあう新たな状況が生まれる中、我が国が直面する様々な課題や社会構造の抜本的な変革に対応するための新たなイノベーションの持続的な創出が期待されている。 Beyond 5G、AI技術、量子技術、サイバーセキュリティを始めとした分野における世界最先端の研究開発を戦略的に推進し、その成果である革新的な技術シーズを着実に社会実装へとつなげていくほか、テレワーク、遠隔医療、オンライン教育等ウイズコロナ・ポストコロナ時代の「新たな日常」を支えるICTインフラの高度化に積極的に取り組む必要がある。 Beyond 5Gの実現を通じて、我が国の国際競争力強化等に貢献することが求められており、要業技術の早期実現に加え、その成果の早期の社会実装・海外展開が期待されていることから、恒久的な基金が達成された。そのため、これまで以上に基金の適正な管理・運用及び研究開発成果を最大化する体制の整備が重要となっている。 </div> </div> <p>（中長期目標）</p> <p>令和3年度から始まる新たな中長期目標期間において、NICTが以下の役割（ミッション）を果たすことを期待。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①電磁波先進技術分野、②革新的ネットワーク分野、③サイバーセキュリティ分野、④ユニバーサルコミュニケーション分野、⑤フロンティア研究分野等、国の政策体系において研究開発を行うべきものとされた研究開発課題に取り組むこと。 研究開発成果を社会経済全体のイノベーションの積極的創出につなげるため、Beyond 5Gの推進、オープンイノベーション創出に向けた産官連携等の強化、戦略的・機動的な研究開発ハブの形成によるオープンイノベーションの創出、知的財産の積極的な取得と活用、戦略的な標準化活動の推進、研究開発成果の国際展開の強化、国土強靱化に向けた取組の推進、戦略的ICT人材育成、研究支援業務・事業振興業務等に取り組むこと。 NICT法に基づき標準時通報等の業務（NICT法第14条第1項第3号、第4号及び第5号に基づく業務）を着実に行うこと。 給与や研究環境を含めた処遇面の改善等、競争の激しい研究分野の研究者の確保に資する取組を行うこと。 	<p style="text-align: center;">国立研究開発法人情報通信研究機構（NICT）の使命等と目標との関係</p> <p>（使命）</p> <p>NICTはICT分野を専門とする我が国唯一の公的研究機関であり、国際動向を踏まえつつ、国の情報通信政策との密接な連携の下、大学や民間企業では実施できないような長期間にわたり組織的に推進すべき情報の電磁的流通及び電波の利用に関する技術の研究及び開発、標準時の通報、通信・放送事業分野に属する事業の振興等を総合的に実施。</p> <p>（現状・課題）</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 48%;"> <p>◆強み</p> <ul style="list-style-type: none"> AI、サイバーセキュリティ、リモートセンシング分野等における膨大な研究データを蓄積・活用しており、我が国の国際競争力や優位性確保等に資する貴重な強みを持っている。 長年の基礎研究の成果を活用し、技術移転やライセンス提供等を行うことにより、民間企業による商用展開や自治体等における社会実装が進んでいる例もある。 <p>◆弱み・課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 最先端の研究分野では、世界的に人材獲得競争が過熱しており、優秀な研究人材の確保が大きな課題となっている。NICTでは、現状、例えば、給与面ではいわゆる「GAFA」のようなグローバル企業には到底及ばず、魅力的な研究環境（豊富なデータを活用可能な環境）で優秀な研究人材をつなぎとめている状況。 </div> <div style="width: 48%;"> <p>（環境変化）</p> <ul style="list-style-type: none"> ICTの急激な進展により、グローバルな環境においてあらゆる「もの」が瞬時に結び付き相互に影響を及ぼしあう新たな状況が生まれる中、我が国が直面する様々な課題や社会構造の抜本的な変革に対応するための新たなイノベーションの持続的な創出が期待されている。 Beyond 5G、AI技術、量子技術、サイバーセキュリティを始めとした分野における世界最先端の研究開発を戦略的に推進し、その成果である革新的な技術シーズを着実に社会実装へとつなげていくほか、テレワーク、遠隔医療、オンライン教育等ウイズコロナ・ポストコロナ時代の「新たな日常」を支えるICTインフラの高度化に積極的に取り組む必要がある。 </div> </div> <p>（中長期目標）</p> <p>令和3年度から始まる新たな中長期目標期間において、NICTが以下の役割（ミッション）を果たすことを期待。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①電磁波先進技術分野、②革新的ネットワーク分野、③サイバーセキュリティ分野、④ユニバーサルコミュニケーション分野、⑤フロンティア研究分野等、国の政策体系において研究開発を行うべきものとされた研究開発課題に取り組むこと。 研究開発成果を社会経済全体のイノベーションの積極的創出につなげるため、Beyond 5Gの推進、オープンイノベーション創出に向けた産官連携等の強化、戦略的・機動的な研究開発ハブの形成によるオープンイノベーションの創出、知的財産の積極的な取得と活用、戦略的な標準化活動の推進、研究開発成果の国際展開の強化、国土強靱化に向けた取組の推進、戦略的ICT人材育成、研究支援業務・事業振興業務等に取り組むこと。 NICT法に基づき標準時通報等の業務（NICT法第14条第1項第3号、第4号及び第5号に基づく業務）を着実に行うこと。 給与や研究環境を含めた処遇面の改善等、競争の激しい研究分野の研究者の確保に資する取組を行うこと。

変更案

NICTの評価軸等

III. 2. 分野横断的な研究開発その他の業務

項目	評価軸	指標
(1) Beyond 5Gの推進	<ul style="list-style-type: none"> Beyond 5Gの実現に向けた取組の強化につながっているか。 公募型研究開発プログラムを適切に実施したか。 	<p>注 <u>二重下線部は、情報通信研究開発基金に係るものに限る。</u></p> <p>【評価指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> Beyond 5Gの実現に向けた産学官連携等の活動状況 公募型研究開発プログラムに係る研究開発マネジメントの取組状況(進捗管理等の活動状況、評価委員会の設置・活動状況等) 公募型研究開発プログラムの応募・採択状況 <u>社会実装・海外展開の促進等、研究開発成果の最大化に向けた取組状況</u> <p>【モニタリング指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 標準化や国内制度化の寄与件数 <u>国内外での特許出願(・登録)件数</u> <u>研究開発の実施者間の調整・連携に向け、NICTが主催した会合等の開催件数やその出席者数</u> <u>知財・標準化に向け、NICTが主催した会合等の開催件数やその出席者数</u>

項目	評価軸	指標
(3) 戦略的・機動的な研究開発ハブの形成によるオープンイノベーションの創出	<ul style="list-style-type: none"> Beyond 5Gの実現に向けた取組の強化につながっているか。 Beyond 5Gの実現やハイレベルな研究開発を行うためのテストベッドが構築され、テストベッドが有益な技術実証・社会実証につながっているか。 	<p>【評価指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> Beyond 5Gの実現等に向けたテストベッドの構築状況 <p>【モニタリング指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> NICT内外によるテストベッドの利用件数(うち、NICT外の利用件数) <u>NICT外のテストベッド利用者(機関)数</u>

現行

NICTの評価軸等

III. 2. 分野横断的な研究開発その他の業務

項目	評価軸	指標
(1) Beyond 5Gの推進	<ul style="list-style-type: none"> Beyond 5Gの実現に向けた取組の強化につながっているか。 公募型研究開発プログラムを適切に実施したか。 	<p>【評価指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> Beyond 5Gの実現に向けた産学官連携等の活動状況 公募型研究開発プログラムに係る研究開発マネジメントの取組状況(進捗管理等の活動状況、評価委員会の設置・活動状況等) 公募型研究開発プログラムの応募・採択状況 <p>【モニタリング指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 標準化や国内制度化の寄与件数

項目	評価軸	指標
(3) 戦略的・機動的な研究開発ハブの形成によるオープンイノベーションの創出 Beyond 5Gの推進	<ul style="list-style-type: none"> Beyond 5Gの実現に向けた取組の強化につながっているか。 Beyond 5Gの実現やハイレベルな研究開発を行うためのテストベッドが構築され、テストベッドが有益な技術実証・社会実証につながっているか。 	<p>【評価指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> Beyond 5Gの実現等に向けたテストベッドの構築状況 <p>【モニタリング指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> NICT内外によるテストベッドの利用件数

Page	変更案			現行		
別紙 3	項目	評価軸	指標	項目	評価軸	指標
	(6) 研究開発成果の国際展開の強化	<ul style="list-style-type: none"> 取組が研究開発成果の国際展開につながっているか。 	【評価指標】 <ul style="list-style-type: none"> 国際連携・国際展開の活動状況 	(6) 研究開発成果の国際展開の強化	<ul style="list-style-type: none"> 取組が研究開発成果の国際展開につながっているか。 	【評価指標】 <ul style="list-style-type: none"> 国際連携・国際展開の活動状況 <u>（評価指標）</u>